

中央コンサルタントK.K
金沢大学工学部

正 安藤 澄
正 松浦 義満

1. はじめに

現代の都市には様々な問題が山積みになっている。それらは土地の高騰、交通問題、そして騒音、公害から青少年の非行といった問題まで枚挙にいとまがない。これらの問題それぞれに対する対策は確かに必要であるが、それと同時にその根底にある基本的な原因はどこにあるかということについて考えてみることも大切なことであると思われる。この報告は都市に生活する人々の多種多様な欲求が満たされないための不満が根本的な原因となって種々の都市問題が発生してきているという前提のもとに、都市における諸問題の発生原因、その対応方法について考察する。

2 都市問題の原因としての欲求の分類と考察

欲求は人に何らかの行動を促すものであり、それだけに多種多様である。それらの欲求は、欲求が向けられる対象によって表-1のように三種類に分類することができる。肉体的欲求は、人間個人の肉体を維持するための個体保存の欲求と人間という種を存続させようとする種族保存の欲求とに二分することができ、それは肉体そのものによって限界付けられた欲求である。

社会的欲求は名誉・権力を獲得し、集団を組織し、何物(者)かを所有することによって自分の周辺を固め、その存在を確たるものにしようとする欲求であるように思われる。また文化的欲求は、抽象的な言い方になるが、人をして真・善、そして美なる行為を行なわしめる欲求であると言える。

これらの三種類の欲求の内、いずれの欲求を満たすことが現代の都市に生活する人々にとって困難であるかについて考えてみる必要がある。それは社会的欲求であるのだが、このことは現在の社会の状況と概観してみれば明らかになるだろう。現在に至るまで社会は都市とその中心として急速な発展をしてきた。それは社会の規模が拡大し、構造が複雑になってきたということであるのだが、それに伴って社会的欲求も拡大し、複雑化の傾向を辿ってきたのである。一つの例として、現代のような物質中心の社会ではそれ以前の物質面では貧しい社会に比べて物質に対する所有欲が著しく増大してきているといった事実を挙げる事ができる。社会そのものが欲求と燃えるような状態の中でその欲求が満たされるといことは不可能に近いと思われるのである。

ところで、他の二つの欲求については社会的欲求ほど問題になる度合いが大きいとは思われない。肉体的欲求は胃袋がいっぱいになれば、それでもうしばらくは食欲は満たされてしまうように、肉体の構造によって限界が来っている。文化的欲求は、それが満たされないための不満が心の中にずっと蓄積されるといったことはないと思われる。

3 社会的欲求の問題

人間の存在を確証することは現在に至るまで哲学における一大問題であるし、宗教さえもそのための一つの試みであると言えることができる。そして社会的欲求が目指すところも同じだと思われるのだが、我が身に振り返っ

表-1 欲求の分類

- | | | |
|--------------------------|---|--|
| 1. 肉体的欲求 | { | i. 個体保存の欲求
食・呼吸・排泄・休息・睡眠・苦痛
や危険から逃れようとする欲求 |
| ii. 種族保存の欲求
母性愛・恋愛・性欲 | | |
| 2. 社会的欲求 | | 名誉・権力・集団・所有に対する欲求 |
| 3. 文化的欲求 | | 芸術的・学問的・宗教的・道德的欲求 |

で考えてみるならば、いくら名誉・物・権力を得てもそれは不可能であることがわかれると思われる。このような意味で社会的欲求はもともと矛盾した欲求であると言え言うことができるのである。だからこそこの欲求が満たされないための不満が人々の心中に蓄積される度合いが多くなっているように思われる。

4 問題の解決

前項までで得ることができた結論は人々の心の内に蓄積された社会的欲求が満たされないための不満が都市問題を引き起こす最も重要な原因になっているのではないかということである。しかし、今の社会の状態でこの欲求を満たすことは不可能に近いとは前にも述べた通りである。これでは都市問題の解決も全く困難だということになるのだが、社会的欲求を文化的欲求に変化することによって問題を解決することが可能と思われる。スイスの心理学者C. G. ユングはその著「無意識の心理」の中でリビドー（心理学的エネルギー）という概念を用いている。これは誰しもに中にある定まった量のリビドーを有しており、それが向けられる方向の違いによってその人の欲求の現れ方も異なってくるということである。表-1の分類に基づいて説明すれば、リビドーが社会的欲求の方向に向けられるとすればその人は社会的欲求を満たそうと躍気になるだろうし、文化的欲求に向けられればそれを満たそうと努力するわけである。つまり、リビドーの流れを社会的欲求への方から文化的欲求の方へ変えることによって、社会的欲求が満たされないための不満とある程度解消することができると思われるのである。

5 問題の別の側面

今の社会が政治、経済、文化の面で健全に発達してきたと断言できる人はほとんどいないと思われる。そして社会の歪んだ発達の結果各種の都市問題が現われてきているのである。この原因として、ここでも社会的欲求の拡大、複雑化を挙げることができる。今の社会は、名誉や権力を得、何物かを所有し、集団を組織したいという社会的欲求に導かれてここまで発達してきたと言っても過言でないと思われる。しかし、多くの人々にとって「社会の発展そのものは二番目の関心事」にしが過ぎないのである。ここでもまたリビドーの流れを社会的欲求の方から文化的欲求の方へ変えることによって問題を解決することができると思われる。なぜなら、社会を良くしたいという欲求も文化的欲求の中には含まれているからである。

6 教育の問題

以上より得られた結論は、都市の問題を根本から解決するにはまずそこに生活する人々の意識の持ち方から変えていく必要があるということである。そのために最も応わしい場所としては教育の場である学校が考えられる。しかし、この学校でも社会的欲求の及ぼす悪影響が如実に現われている。例えば、今の高校である。高校も本来教育の場であるべきはずであるのに一般に名の通った高校程大学受験のための予備校と化してしまっている。一流の高校から一流の大学に入り、更に一流会社に入るという言葉が示すように、学校へ入学することの目的はそこで学ぶことではなく、最終的には富と地位と名誉を得ることなのである。これはまさしく社会的欲求の要請に他ならない。

7 教育の可能性

今の教育ではその出発点から集団と協調することが重視されている。しかし、これに加えて一人一人が自らの個性を自覚し、それを伸ばすことを学ぶ必要があると思われる。これは自分には各種の欲求がどのような形で現われているかを認識し、更に、それがうまく現われるようにすることを学ぶことである。そして文化的欲求を自分の行動の羅針盤にすることを学ぶべきではないかと思われる。

文化的欲求は、個人個人の違いはあるけれども、誰しも持っているものであり、この欲求に応わしいはけ口をみつけ出してゆけばよいのである。そうすれば社会的欲求も節度を持った仕方と現われてくるだろうと思われる。